

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士（医学） 氏名 古川 卓朗

審査担当者	主査	教授	丸 藤 哲
	副査	教授	三 輪 聡 一
	副査	教授	西 村 正 治
	副査	教授	筒 井 裕 之
	副査	教授	有 賀 正

学位論文題名

The cause of B-type natriuretic peptide (BNP) elevation and the dose dependent effect of angiotensin converting enzyme inhibitor (ACE-I) in patients late after repair of tetralogy of Fallot.

(ファロー四徴症術後遠隔期における、脳性利尿ペプチド上昇の要因とアンギオテンシン変換酵素阻害薬の効果についての検討)

TOF術後では右室容量負荷 (RVVO) 等の問題が予後不良因子となるが、外科的介入の適応等には議論があり、また内科的治療の報告も少ない。今回、内科的治療法の可能性を探る目的で、TOF術後症例におけるBNPと血行動態指標の関係 (BNP study)、ACEIの薬剤量とBNPの関連 (ACEI study) を検討した。BNP studyの31例では、右室拡張末期 (RVED) の容積、圧とBNPの相関を認めた。ACEI studyの11例では、体重あたりのACEIが最大時のBNPは最少時より低く、ACEI増量後ではBNPの低下を認めた。結果、TOF術後では、BNPがRVEDの負荷に相関する事、またACEIがBNPを低下させる可能性が示唆された。

非公開発表では、副査の三輪聡一教授より、一般的なBNPの上昇要因とACEIの血中濃度測定について質問があった。副査の西村正治教授より小児のBNP測定および右室負荷以外のBNP上昇要因の質問と、後方視研究へのコメントがあった。副査の筒井裕之教授よりBNPとRVED圧の関係について、およびACEI studyでの新たな検討項目を指摘された。副査の有賀正教授から小児例へのACEI投与、ACEIのRVVO以外への効果に関しての質問があった。主査の丸藤哲教授より右室収縮期圧とBNPの関係、またACEIの効果がある例とない例の相違点の質問があった。いずれの質問に対しても申請者は妥当な回答をした。

この論文は修正が必要ながらも、TOF術後におけるBNP上昇の要因およびACEI治療の有効性を示唆した点で高く評価され、今後症例の蓄積からCHD術後における内科的治療の新たな知見が得られる事も期待される。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し大学院課程における研鑽や取得単位なども合わせ申請者が博士（医学）の学位を受けるのに十分な資格を有する者と判定した。